

露地モモの夏季せん定法

農業研究センター 果樹研究所 落葉果樹部

研究のねらい

モモは、幼木から若木にかけて枝梢の生育が旺盛で、品質低下、樹形の乱れ、下枝の枯れ込み、花芽の充実不良などを起こしやすい。また、冬季に強せん定を行うと樹勢がますます強くなり、結実不良や品質低下の原因となる。このような問題を解決するために夏季せん定が行われるようになったが、切り過ぎると、再発芽による花芽の不足や不充実並びに葉数不足などによる樹勢低下を招き、逆効果になることもある。

そこで、樹形を整え、枝梢の充実を良くし、かつ樹勢を適正に保つ、夏季せん定の時期、程度及び方法について検討した。

研究の成果

1. 5月22日～9月2日に掛けて10日おきに、徒長枝または強い発育枝を5節残して切り返し、それから再発芽した副梢の各節の花芽着生率は、5月22日処理が69%、6月2日処理が60%、6月12日が43%、6月22日が45%、7月2日が33%、7月12日が21%であった。また、7月31日以降の処理では花芽はなく、8月12日以降の処理ではほとんど再発芽は見られなかった。以上の結果から、新梢の切り返しにより充実した副梢を得るためには、6月上旬までの処理が適当であることが解った
2. 8月20日、8月27日及び9月3日に、各主枝の半分程度のところを縮伐し、再発芽の状態を調査したところ、8月20日処理樹では12%の二次伸長枝があったが、それ以降の処理樹では再発芽は見られなかった。以上の結果から、8月末以降は強いせん定を行っても再発芽しないことが解った。
3. 6年生の武井白鳳を用い、2カ年間次のような処理を行った。①収穫直後+9月上旬(全せん定量の約8割) ②収穫直後+9月上旬(全せん定量の約7割) ③収穫直後(全せん定量の約6割) ④無処理・・・
4. 上の結果、収穫直後と9月上旬のせん定は、次年度利用する結果枝の日当たりを良くするため花芽が充実し、収量及び果実品質にプラスに働くことが解った。また、せん定時間も無処理樹より1樹当たり約10分短くなった。ただし、①のようにせん定を強くすると、樹勢を弱らせ収量を低下させる危険性があった。
5. よって、夏季せん定は、徒長枝の多発するような樹勢の強い樹を対象に、収穫直後と9月上旬に樹冠内部(主枝、亜主枝の約半分以下)の徒長枝ぬきを主体に行う。また、収穫前は、芽かぎやねん枝等で新梢管理を行うが、それでも果実の着色が悪いようであれば、果実着色開始期直前に果実に陰をしている強い発育枝だけを5節程度残して切り返しておく。

表1 新梢の切り返し時期と再発芽した副梢の冬季の芽の状態

処理日	%	V %	V V %	%	V %	%	V %	V V %	V V V %	x %	
5/22	35.7	8.6	1.3	0.9	22.1	0.0	18.2	0.0	1.6	11.8	
6/2	36.3	6.8	0.1	0.1	16.6	0.0	21.3	0.0	0.0	19.0	
6/12	19.3	8.2	0.1	0.1	15.4	0.0	31.6	0.3	0.0	25.1	
6/22	15.3	10.4	0.0	0.5	19.0	0.0	21.9	0.2	0.0	32.8	
7/2	16.1	5.8	0.3	0.0	10.9	0.0	21.1	0.0	0.0	45.9	
7/12	13.5	1.3	1.2	0.0	4.5	0.0	19.7	0.8	0.8	60.3	
7/31	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	94.0	
8/12	発芽なし										
8/24	5本のうち1本が発芽						(25.0)		(75.0)		
9/2	発芽なし										

注) は花芽、Vは葉芽、xは芽のない節

表2 縮伐時期と二次伸長の程度

処理日	樹	再発芽率	二次伸長部の平均長
8/20		7 %	1.3cm
		17 %	2.1cm
8/27		0 %	-
		0 %	-
9/3		0 %	-
		0 %	-

表3 夏季せん定の時期と程度の違いによる果実品質と収量への影響(1,993年産)

区	1果重 g	糖度 Brix	着果数 個/樹	収量 kg/樹
	213	9.2	211	44.6
	195	9.4	316	60.4
	213	9.5	240	49.9
	215	8.9	275	58.4